

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

(1) 東京韓国学校との交流授業

- ・年間2回の交流授業。
- ・1回は本校に招待。「日本の遊び、日本の食べ物紹介、餅つき大会」
もう1回は韓国学校へ出向き、遊び、文化体験をする交流
韓国の遊び、文化（衣装などを着る）、民族舞踊を見せてもらう等

(2) 留学生・外国との交流活動

- ・4, 5年生による「レッツ・トライ」
(留学生グループ)
少人数のグループに留学生を2名ずつ程度招き、互いの国の文化を伝えあうためにプレゼンテーションをしたり、料理や遊びで交流したりする。
(アニメグループ)
自分たちが作成したアニメをフランスのアヌシー市の小学生に送り交流する。言葉が通じない部分を表現でいろいろと工夫し、仲良くなるための工夫をする。
- ・1年生による「菊の子カーニバル」
留学生から様々な国の文化を教えてもらい、それを元にして興味をもった国の遊びや踊り、ゲームなどをカーニバル形式で準備し、留学生を招待して楽しむ活動。

(3) 移動教室におけるフィールド学習

- ・移動教室で行く地域（富浦・箱根・日光）の歴史、文化、自然環境、特産物などについて、自分が興味をもったテーマから課題を設定し体験を通して追究活動を行い、問題解決や学びを深めていく活動。
現地では、専門家を指導者として依頼し、グループごとに体験活動を行い、戻ってから成果の発表会を行う。

(4) スポットガイド日光

- ・6年生移動教室で出かける日光東照宮（世界遺産）についてグループごとに調べ、現地で飛び込み的に観光客（外国人を含む）に声をかけ東照宮についてのガイド活動を行う活動。英語活動で事前に使える英語を学習し、外国人観光客にも積極的に声をかけるようにする。

(5) 各教科での異文化間教育カリキュラム

- ・児童の視野を広げ、「グローバル社会に生きる力」として異文化間にとって生き方を広げる授業を各教科で単元開発し、授業実践を行っている。

(代表例)

5年社会「世界に向けた米作り～TPPをのりこえグローバル化を図る農家から考える～」

TPP問題に直面する農家の米作りについて学び、農家の思いをうけて、これからの日本の農業の未来について自分なりの考えをもち、討論をする。

6年図工『『アート』って何だ？－「ヒロシマの空をピカッとさせる」(作品名)はアートなのか－』

反戦をテーマに Chim↑Pom というアーティストの行った「ヒロシマの空をピカッとさせる」という活動を取り上げ、作者の思いや予告なしに活動を見る結果となった広島市民の方の不快感、逆にそのことを評価する人々の思いなど、様々な事実を知り、自分なりに「アート」とは何かを考え、討論する。

(6) 全学年での英語教育の取り組み

本校では「グローバル社会に生きる力」として「外国語力」を児童に身に付けさせることを大きな柱の一つととらえ、1年生から6年生まで週1時間ずつの英語教育を2002年より実施している。英語でのコミュニケーション能力を身に付けさせることがグローバル社会を生きる人材には必要であると考えているからである。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（移動教室の時間の中での活動）